

2024 年 9 月 1 日 午前 10 時 30 分
 聖霊降臨節第 16 主日 主日礼拝
 司会 植松みよ
 奏楽 徳江由利

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のめき)

前奏

招きのことば エレミヤ書 31:12-13

讚美歌 17「聖なる主の美しさと」 一同

交読詩編 65:6-14(P.72/68)

祈り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

足利東教会 佐野教会 鹿沼教会

(主の祈り)

讚美歌 208「主なる神よ、夜は去りぬ」 一同

聖書 新約 ヨハネ 8:12-20(P.181)

メッセージ『真理が与える自由』

祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 394「信仰かけつぎ」 一同

献金 一同

(献金感謝の祈り)

信仰告白 (インドネシアの信仰告白) 一同

頌栄 24

派遣・祝祷 川上 盾 牧師

後奏

報告・紹介

<招きのことば> エレミヤ書 31:12-13

彼らは喜び歌いながらシオンの丘に来て、主の恵みに向かって流れをなして来る。彼らは穀物、酒、オリーブ油、羊、牛を受け、その魂は潤う園のようになり、再び衰えることはない。そのとき、おとめは喜び祝って踊り、若者も老人も共に踊る。わたしは彼らの嘆きを喜びに変え、彼らを慰め、悲しみに代えて喜び祝わせる。

《9月礼拝当番》 手塚福治 岩淵デボラ

野村敏子 岸久美子

深町奈穂子 深町 穰

《今週の集会・行事》

◎ 本日礼拝後 “教会げんてん” 9月定例役員会

◎ 本日 16:00 群馬地区大会実行委員会 (前橋)

◎ 4日(水) 10:30 & 19:30 聖研祈禱会

◎ 6日(金) 牧師、共愛学園理事会

◎ 7日(土) 10:00 会堂清掃 A 組

《次週の主日》

◎ 主日礼拝 10:30 群馬地区講壇交換

メッセージ『地に住むものとして』清水信浩 牧師

聖書:新約 ペトロの手紙 I 1:1-2(P.428)

讚美歌 171, 402, 504, 29

交読詩編 70:1-6(P.79/75)

司会:畠中祥世 奏楽:川名ひさ子

◎ 清水牧師を囲む昼食交流会

◎ 群馬地区社会部委員会 15:00 (高崎南)

《予告》

◎ 紅雲町集会 12日(木)10:30

◎ 恵老礼拝 15(日)10:30 恵老愛餐会

◎ 群馬地区役員懇談会 15日(日)15:00

“これからの教会”について (高崎教会)

◎ 婦人会例会 (映画会) 19(木)10:30

『ドライビング・ミス・デイジー』

《報告》

◎ 次週は地区講壇交換です

島村教会 (清水信浩牧師) との間で行われます。礼拝後は恒例の「カレー食堂」により昼食交流の時を持ちます。

◎ 恵老礼拝(9/15)のご案内

礼拝後、恵老愛餐会を行ないます。75歳以上の方はご招待、それ以外は会費 300 円。今年 75 歳を迎える方には教会からのプレゼント。愛餐会の参加申込み、本日〆切。

◎ 群馬地区役員懇談会(9/15 15:00 高崎教会)

今後、群馬地区でも兼牧、共同牧会、合同・合併が必要になってきます。各教会の考え方を根本的に変えなければ対応できません。そのため話し合いの第 1 回目です。役員に限らず、このことを「わがこと」としてとらえ、ぜひご参加下さい。

◎ 地区婦人部全体集会(10/4)のご案内

講師に月本昭男先生 (立教大学教授・新島学園高校出身) を迎え、高崎教会で開催されます (10:30~14:00)。詳しい案内は後日となりますが、お弁当準備のため参加申し込み(会費 700 円)が必要です。9 月 15 日までにお申し込み下さい。

◎ 地区青年のつど(9/22 16:00 から)のご案内

「最初の晩餐」と銘打って、前橋教会で開催されます。コロナ状況によりしばらく開かれていませんでしたが、徐々に集まり、みんなでピザを焼いて交流する内容です。申し込み必要 (9/8 まで 教会単位で申込)。詳しくは掲示板の案内をご覧ください。

《消息》

◎ 木俣 修さん … 足のケガ(骨折)で自宅療養中です。回復をお祈り下さい。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献金	
主日礼拝	43	27	23,968	
	ジュニア	シニア	計	
CS午後礼拝	5	5	14	24

《メッセージ》『光に従う歩み』川上 盾 牧師

出エジプト 13:17-22、ヨハネ 8:12-20 (8 月 25 日)

▼夏休みで函館旅行に出かけた。函館山からの夜景を楽しみに登ったが、霧が浓浓的ってよく見えなかった。夜景はすぐそこに「ある」のに、見えなくするものがあって「見えない」。▼都会の夜の星空も、ふだんは街の明かりが強すぎてあまり多くは見れない。しかし時折全戸停電などにより、満天の星空が輝く時がある(たとえば東日本大震災当日の夜)。それは「感激」を越えた「霊的」な体験だと思ふ。▼今日の箇所は新約も旧約も「光に従う歩み」に関する箇所だ。旧約は出エジプト記。奴隷から解放され、約束の地に至るまで荒野をさすらうイスラエルの民。見知らぬ土地を進む「彼は雲の柱、夜は火の柱」が導いたと記される。▼ではその「雲の柱・火の柱」とはどんなものだったのだろうか? いつでもどこからでも確認できる巨大な柱・強い光だったのか? ひよっとしたらそれは、よく目を開き見ようとしなければ見えないものだったのではないかな。なぜならその後のイスラエルの民の姿は、何度も神の約束を疑い、罪や過ちを犯す歩みでもあったからだ。▼神の守り・導きはいつも確かに「ある」。しかし民にはそれがいつも見えていたわけではない...そんな中を浮き沈みしながら歩んで行く、それが人々の姿だったのでないだろうか。▼「私は世の光である。私に従う者は暗闇の中を歩まず、命の光を持つ」。新約・ヨハネ福音書のイエスの言葉だ。イエスこそまことの光、その光に従うことで私たちもまた光を持つ...そんな信仰を呼び覚ましてくれる力強い言葉だ。▼ではそのイエスの光とは、どんな光だったのだろうか? この言葉を聞いたファリサイ派の人々は「あなたは自分で自分の証言をただしているだけではないか」と言って信じようとしなかった。イエスと彼らとのやりとりは、結局堂々巡りの水掛け論、つまり彼らにはイエスの光は見えなかったということだ。▼このことはヨハネ福音書の冒頭において既に示唆されている。「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。」(ヨハネ 1:9-10/口語訳) 光はそこにあり、心開きさえすれば道が備えられているのに、誰もが見る・進むわけではない。心の目を開いて見ようとしないう限り見えてこない光、そんな光に従う歩みこそ、まことの命に至る歩みあることが示される。▼「光に従う歩み」それは信仰の大きなテーマだ。その道を進むにあたって、もうひとつ大切なことを思う。それはイエスの光と、私たち自身の間の距離感だ。光から遠く離れ過ぎると、間の道が見えなくなる。かといって近過ぎると自分しか見えなくなる。少し離れて、足元を見つめ照らされて、そしてイエスに従う...その心の距離感が大切なのだ。▼しばしば私たちはその光を見失う。だからこそ、週に一度の礼拝が大切なのだと思う。仲間と一緒に共に祈り、賛美し、いっしょに道を照らされながら光に従ってゆく者でありたい。